

第5回 総合物流施策大綱に関する有識者検討会
議事概要

1 日時

平成29年5月18日（木）10:00～11:40

2 場所

中央合同庁舎3号館11階特別会議室

3 出席委員

野尻俊明座長、秋田進委員、一柳尚成委員、内田明美子委員、圓川隆夫委員、苦瀬博仁、小林友二委員、坂本隆志委員、佐藤修司委員、神宮司孝委員、高松伸幸委員、竹林幹雄議員、永峰好美委員、羽津元之委員、原田昌彦委員、樋口恵一委員、一柳創委員、兵藤哲朗委員、藤倉泰徳委員、増井忠幸委員、村上敏夫委員、

4 議題

- (1) 提言の骨子について
- (2) 提言のとりまとめの考え方の整理について
- (3) その他

5 議事概要

- ・事務局から提言の骨子及び提言のとりまとめの考え方の整理について説明を行った後、委員に御議論いただいた。

【委員からの主な意見】

- 2020年度までの施策となっているが、少子高齢化等が続くのは明白なので、2020年度以降も見据えて今やるべきことという位置づけとした方がいい。
- もっとメリハリが必要。本格的な人口減に突入し、都市が拡大から縮退へ、新規開発から更新へと時代が変わっており、サービスについても向上一辺倒だったものが抑制していかないとサービスの維持ができない状況にあるなど、物流にとって大きなターニングポイントを迎えていると思われる。既存のものを強化するだけでなく、リニューアルするなどの議論を正面から打ち出すべきではないか。考え方を直さなければいけないということを前段でしっかりと書いて欲しい。
- 社会構造の変化を踏まえ、物流への要求がどのように変わっていくか書いた上で、それに対する方策を書くのがいいのではないか。新技術活用のための環境整備について、具体策を書いていくべき。また、共通プラットフォームの構築は重要なテーマ。

- 安全・安心については、災害対応だけでなく、日常的な安全・安心についても書くべき。
- 物流が身近になりすぎてしまったがために、物流が提供している付加価値に対する認知が低すぎるという課題を感じている。提言6に国民に対する啓蒙のところでは、そういった点も考慮すべき。
- 提言3の書きぶりについて、これからの物流を考えた場合、港湾や、空港などのインフラを確保するための用地が不足しているのではないかと懸念している。社会資本整備の方向性と絡めて考えていかなければいけない。また、離島サービスについては危機的な状況であり、もう少し丁寧に議論すべき。
- 生産性の向上のためには、効率化だけではなく、価値を創造していくことが重要なので、価値の創造という考え方を入れていくべき。提言5についても、IoTは効率化ではなく価値を創造するものと認識している。
- 提言2で共通プラットフォームの話をしているにも関わらず、提言3になるといきなりモード別の話になってしまっている。以前の大綱のように、国際物流、幹線物流、都市内、中山間地という括りで整理した上で、それを受けてモード別の話を展開していくとしたらどうか。
- 輸送分担率の問題から入って、輸送の9割を占めるトラック輸送が限界にきているので、サービス抑制や受け皿としての船や鉄道への輸送分担率のシフトをする必要があるといった流れとしたらどうか。
- 輸送の共同化や物流センターの利用などシェアリングエコノミーの観点も中身の方でいれていくべき。また、人材の育成については、最適なサプライチェーンを「構築」するだけではなく「管理運営」することも必要。
- 物流に配慮した物流社会を構築すべきということを前段に記述してほしい。
- 再配達の問題など、国民がこれだけ対応を受け入れているというのは大変珍しいので、この気運を活用すべき。国民への啓発について、誰がどういう形で啓発していくのか、しっかりと書くべき。
- 「強い物流」が今までの物流とどう違うのかが見えてこない。提言1については物流の弱さを記載するなど、見せ方を工夫したほうがよいのではないかと考えているので、そういった部分を意識して書くべき。

- 過去には消費税の駆け込み需要で物流が逼迫したが、今後も起こりうるので、そういった課題をきちんと認識しているという立場に立って書くべき。
- 地方創世にどう対応するのが読みづらい。また、2020年までとしている理由については、交通政策基本計画等とあわせるということではなく、2020年までの変化が激しいと思われるため従来の5ヶ年計画を脱却する、といったことにした方が良いのではないか。
- 色々な変化に追従していくということだけではなく、日本が世界をリードしていくといった記述があってもいいのでは。
- 骨子概要では、物流の生産性の向上によって、我が国の経済成長を支える「強い物流」を構築すると書かれており、経済成長のための物流というのが強調されているが、社会基盤としての物流、生活基盤としての物流というニュアンスも出すべきはないか。また、インフラ機能向上の部分はもう少しわかりやすい表現ができないか。
- シェアリングエコノミーが推進される世の中となっているが、産業業法を逸脱した形の取扱のないようにということに触れておければよいと思う。
- 物流がインフラであるということを一一般の方々にわかるように協調するべき。
- 提言4が独立しているように見えるが、他の提言との関係も書くべき。災害対応は平時から関係者との連携を進めておくことが大事である。
- 策定されて終わりではなく、時間軸、優先順位を決めるなど、工夫してPDCAを回していければよいと思う。
- NACCS の話を含め、アジアとの関係が重要であるといった国際物流の話をもっと入れるべき。
- 国民への啓蒙強化を大綱策定の意義の中で強調して書いてほしい。また、民間で協調する部分と競合する部分の線引きを具体化するための議論ができる場を設けていただくとありがたい。
- 物流に負荷がかかるような商慣習を見直す、国民が物流に配慮するようになる社会にするといった内容を明記してほしい。ASEAN 展開のツールとしてコールドチェーンの話をも明記してほしい。また、KPI の設定の際は細かい施策ごとではなく中項目ぐらいで設定すべき。他省庁の取組と整合をとることも必要。

- 「物流」はただでさえ概念がわかりにくいので、ワーディングにはよく気をつけて欲しい。
- 誰に向かったの提言なのか、といった視点を注意して、一般消費者、国民の方が読んでわかるように文章化してほしい。

【今後の進め方等】

- 次回検討会は6月1日（木）に開催予定。

以 上

(文責 事務局)